



## 6月のグランベール

### …大いなる緑の大地

おかげさまで、ことぶき大学富良野校は開校50周年を迎えることができました。心よりお喜び申し上げます。

グランベールとはフランス語で「深い緑」という意味ですが、十勝岳連峰の麓のここ麓郷を、私と妻は「大いなる緑の大地」と呼んでいます。6月のグランベール…何といい響きではありませんか。

下の写真は6月6日（月）5時27分、向こうにある赤い小屋は、小型水力発電所です。緑と赤のコントラストが良いです。このところ気温が低く、雨も多いので、一段と緑も深く美しいです。

この時期、まだ気温が低い時にすることがあります。まず第一に「スズメバチの巣」の確認です。

オレンジ色の女王スズメバチがこれから巣作りです……一段と大きいです、女王バチの使命を考えると攻撃性は少ないということですが過信はできません…最初が肝心です。巣が出来、働きバチ（メス）が出てくると、もう逃げるしかありません！？（経験を重ねるとわかってきます…）

第二は、花の成長を見ること…これで朝の30分…丸太があった！薪づくりがまだ途中…週末はこれをしようとか、草刈りとか…ことぶき大学のことなど頭の中で優先順位をつけながらの朝の時間、私にとっては特別なイメージトレーニングの時間です……

さて、嬉しい寄稿文が届きました。

1年の金子さんからのメッセージです。

「一期一会」…千利休の言葉、日本人の心、おもてなしの心、忘れていた思いやりの心、純粹、誠実、やさしさ…そんなことを金子さんのメッセージから伝わってきます。

金子さんありがとうございました。



一期一会

富良野校一年 金子 健

人と話しをするのが不得手の私は、中学生の頃から詩歌が友達でした。高校一年生のとき、国語の先生に短歌、俳句を褒められ、自分で探して「蕭蕭（しょうしょう）」と云う雅号を使っています。以来六十年、まるっきし進歩の無い昨今です。今年七年振りに入學し一句詠んでみました。

お茶の和菓子に惑わされ、うっかり入學したものの、嫌われないで学生生活を過ごして行こうと密かに試行錯誤の毎日です。

一期一会を大切に楽しく仲間になれるよう

まなや  
学び舎が

まね さそ  
招く誘いを

ためら  
躊躇いの

ゆ  
こころ揺るがす

ちやかい わがし  
茶会の和菓子

蕭蕭



## 今日の日程

本日6月15日(水曜日)の日程

◎ 研修旅行の費用2300円納入日です。

◎ 昼休みに新しく赴任された桑島洋(くわじまひろし)校長を紹介します。

- 9:00 当番(本科1年生)  
除菌・教室の換気、クラブ準備
- 9:15 朝の集い…校歌・体操・諸連絡
- 9:50 クラブ準備・**クラブ学習④**
- 12:00 昼食・休憩

### 12:50 桑島校長挨拶

- 13:00 「コーラス④」「踊り④」
- 14:00 自主活動(スコープ三味線、他)
- 15:00 50周年準備委員会
- 15:00 終了(13時~第1会議室使用不可)

## 令和4年度 研修旅行 について

昨年、「源氏物語」をことぶき大学で学習しました。その時、紫式部はどんな言葉で会話をしていたのだろうかと疑問に思いました。

中国から伝わった漢字、そして「ひらがな」の誕生…文字がなかった時代、どんな会話でコミュニケーションを図っていたのか…そんなことをいろいろ考えている中にアイヌ語が浮上してきました。アイヌ語と琉球語が似ている…北と南…とても興味が湧いてきました…文化人類学!?

私はそのヒントを探しにウポポイに行きたいと思っています!?

バスの中で少し研修していきましょう!!!

ウポポイ(民族共生象徴空間)園内マップ



## 次回の予定

令和4年度研修旅行  
の日程について

日程 6月29日(水曜日)

集合 7:10

- 文化会館発 7:15
- 生涯学習センター 7:30
- 占冠道の駅 8:15 (8:30発)
- 道東自動車道PA(キウス) 9:30 (9:45発)
- 道央自動車道白老IC 10:45
- 昼食会場 カント着 11:00 (11:45発)  
白老町森野 14-3
- ウポポイ着 12:00  
国立アイヌ民族博物館 ~13:20  
伝統芸能上演 13:30 ~14:00  
フリー ~15:00
- ウポポイ発 15:00  
(由仁PA・占冠道の駅でトイレ休憩)
- 生涯学習センター着 18:45
- 文化会館着 解散 19:00

◎ 学生 29名 事務局2名 運転手 1名  
全員 32名

### 連絡先

- ①富良野市文化会館 0167-39-2318
- ②アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)  
059-0902 白老町若草町2-3-2  
TEL 0144-82-3914
- ③昼食 徳寿ファームレストラン KANTO  
059-0911 白老町森野14-3  
TEL 0144-85-2323
- ④藤野係長の携帯 090-2691-6484  
上用の携帯 090-2810-7385



## 三市町交流パークゴルフ大会 本日最終集約です！

富良野校競技参加者 女性7名、男性4名

西田さん、西濱さん、加瀬谷さん、萱原さん、原さん、長屋さん、池田さん 7名

今さん、四宮さん、平澤稔さん、伊藤さん 4名



〃 応援参加者 女性6名

藤林さん、平澤さん、和八さん、川辺さん、上村さん、田賀さん

◎山部校でも本日最終集約です。最終的な人数及び日程の詳細につきましては別途連絡します。

日時: 令和4年7月14日(木) 8:45 開会式、9:00 競技開始、閉会式 11:30 予定

バス 7:45 山部生涯学習センター 8:00 文化会館発

## ♡スマホ・PC・オンライン同好会 1回目

6月7日(火曜日) 9時30分～図書館2F 多目的室

今年度第1回目のスマホ・PC・オンライン同好会が15名の参加で行われました。

第1回目は、藤野係長を講師に、「不審メールの対処法について」の講習会でした。

### 1 メールアドレスを不用意に公開しない。

詐欺メールや迷惑メールは、あなたのメールアドレスを知らなければ基本的には送られてくることはありません。

ただ、メールアドレスをできるだけ**英数字を混ぜて複雑**にしておくことも必要かも知れません…



### 2 インターネット上で調べてみる。

これは詐欺メールかも知れないと不安になったときは、ネット上で詐欺メールの特徴を入力して検索してみると「詐欺メールです!」という情報も確認できます…でも、困ったときは事務局に相談してください。

### 3 身に覚えのないメールは無視する。

### 4 「迷惑メールブロック機能」を使う。

この迷惑メールブロック機能の中には、ウイルスチェック機能を含んでいるものもあるとのこと。

不安のある方は、利用している携帯会社に問い合わせるといいそうです…



今はメールや携帯の時代です。手紙の返事を首を長くして待つとか…喫茶店で何時間もあの人を待つとか…皆さんもそんな「待つ」経験があったはずですが、今は「待てない社会」というより「待つ必要がない社会」です。返事は一瞬にしてメールで…でも、人の心はもっと複雑でナイーブなはずですが、待つ必要がないと期待や不安もないし、胸の高鳴りもない。だから、あの思い出の喫茶店は今はありません。

味気ない社会なのかも知れません。スマホもパソコンもオンラインも必要ではありますがそれがすべてではないこと、使い分けが必ず必要です。かつて家には固定の電話が1台あるだけでした。家族全員がいる中で電話が鳴る…誰もがハッとし…もしかして!?!いろいろ思い出します…いつの時代でも人の気持ちをわかってあげられるよう、言葉を大事に大切に、心優しい穏やかな自分でありたいものです…

## <寄稿文> 皆さんからの寄稿を待ってます！！

### ウクライナの惨状を見て

富良野校大学院2年 伊藤公雅

連日色々な事件事故が報道されるが、中でも目に付いたウクライナ情勢の中で、某紙面で里子約40人を連れ、東部のルハンスク州リシチャンスクから1000km離れた避難場所、西部のリビウにたどり着いた話題を目にした。

孤児や親に見捨てられた子供達を引き取り、成人した3人の娘さんと共に、3～17歳の孤児ら36人を里親として育ててきた女性の話である。

戦闘の激しい東部で約40日に及ぶ地下生活を経て、市当局の手配した防弾バスや電車を乗り継いでリビウに逃れてきた。

ロシアの軍事侵攻により、ウクライナの子供の3分の2にあたる480万人が国内外に避難を強いられている。

戦況の悪化で病院や学校も破壊され、自宅庭にも砲弾が落ちる様になり、全員を連れて逃げるようにしたが、一番最初に引き取ったボクダン君(15)は夫ワリシーさんと残った。(初めて手にした家を守り抜きたいと、ボクダン君が言い張った為)

平穏な生活を奪われ電気、水道は止まり自宅の地下に籠る生活を余儀なくされていた。爆撃の恐怖でお漏らしをする子も居た。

水の調達は年長の男子の役割、コーリャ君(14)は週4回、2km離れた場所まで湧き水を汲みに出かけていた。

砲撃が激しい時も有ったが、幼い子供達の手前怖がっている姿は見せられないと、引き返す事もなく気丈に振舞ったと。(この記事を見て涙が出てきた)

避難の途中、路上では車が炎上し、バスが砲撃されるかも知れない恐怖を覚えながら、やっとの想いで辿り着いた避難施設は、幸いにしてこれまで暮らしていた子供達が、国外に避難し空いていた。慈善団体が運営する施設に身を寄せる事が出来た。

紙面には、安堵と疲れが残った様な態勢で、ベッドに横たわり、レンズを見つめる少女の眼差しが写っていた。

東部の戦闘は激しくなるばかり。僅かばかりの寄付金を、国境なき医師団に贈った。

